

補強や保温のため、重ねた布に糸で幾何学模様を刺し縫いした衣類を刺し子といます。福島県奥会津の伊南川流域にはこの刺し子の仕事着が伝えられていました。なかでも旧南郷村一帯では、堰普請や上棟式などに新しい木綿の刺し子の半纏を晴れ着として着る習慣がありました。その製作技術は地域の女性たちに受け継がれていましたが、明治初期頃に途絶えたといわれています。

4月5日(火)

▶▶ 5月29日(日)

主催：福島県立博物館

共催：南郷刺し子会

場所：福島県立博物館
エントランスホール

福島県立博物館

福島県会津若松市城東町 1-25
0242-28-6000
general-museum@fcs.ed.jp

南郷刺し子の世界

よみがえる

福島県立博物館
令和4年度ポイント展



平成22年11月、失われつつあった刺し子づくりの文化の継承を目指して、南郷地域の有志により「南郷刺し子会」が結成されました。その後、会津や中通りから関東地方に至るまで、様々な地域の会員により多くの刺し子半纏が製作されてきました。今回の展示では、現代によみがえった南郷刺し子の作品を一挙にご紹介します。

新型コロナウイルスの感染状況により予定は変更になることがあります

トークイベント

次世代へつなぐ刺し子の文化

講師：南郷刺し子会のみなさん・当館学芸員 内山大介

日時：令和4年4月24日(日) 11:00~11:30

会場：福島県立博物館 講堂 (定員 100名・先着順)

